

### 第三場 ●—— 地域型コミュニティと目的型コミュニティの連携

地域型コミュニティと目的型コミュニティは、目的を異にするものではありません。むしろこの二つが連携することで、より多様で効果的なまちづくりが可能となります。また、住民が参画できる窓口もより広がります。

地域型コミュニティは、住民有志のグループ・NPO法人・ボランティア団体などと連携することで、その機能をより発揮することが期待されます。

また、目的型コミュニティは、地域や住民の理解と協力のもとに、活動の輪を広げ、その社会的使命をより高いレベルで目指すことが期待されます。



## [解説]

## 「自治会などの地域型コミュニティによる活動」

阪神・淡路大震災をきっかけに、地域の人と人との結びつきが、救助や復興に重要な役割を果たしたことから、改めて脚光を浴びたのが地域型コミュニティです。

自治会を核とする地域型コミュニティは、住民の身近な生活の場として、住み良い地域社会を築くため、防災・環境・福祉さらには地域教育など、あらゆる分野において、重要な役割を果たしています。

災害に備えた自主的な取り組みをはじめ、地域の課題を自ら解決し、地域のまちづくりを住民相互が支え合い、協働して行うための基盤的な役割を果たす地域型コミュニティ。より多くの人々の参加によって、より地域のコミュニケーションを深め、より良いまちづくりに向けて住民が共通の目標を持って、ともに協力し合うコミュニティの関係づくりが期待されます。

## 「NPO法人やボランティア団体など目的型コミュニティによる活動」

地域型コミュニティ同様、やはり阪神・淡路大震災や日本海重油流出事故を契機として個人や団体による非営利の社会貢献活動が、高い評価を得、活発化してきました。

これらは特定の目的や使命を達成するために組織され、機動性と先駆性と専門性を活かし、直面する課題への対応や行政では困難な社会サービスの提供を行うもので、全体として、多様で幅広い分野の社会貢献活動が期待されます。

## 「地域は住民によって育てられる」

地域型コミュニティは、住民相互が、コミュニケーションを密にすることで、よりその機能を高めることが可能となります。住民の能動的な参加により、その力が結集されたとき、より大きなパワーを発揮することが可能となります。多様化・個別化・複雑化する住民ニーズや新たな地域課題を、住民自ら解決していくために、個人・企業・あるいはNPO法人やまちづくり団体など市民活動団体が、互いにアイデアを持ち寄り、提言し、政策・計画としてまとめ上げ、決定し、実行していくことで、地域と地域型コミュニティは育てられていきます。